

YouTube 公式チャンネル開設のお知らせ

京都 清宗根付館のYouTube 公式チャンネルを10月から開設いたしました。このチャンネルでは、根付の歴史や現代根付の魅力の紹介のみならず、「根付」に関係する「人」と根付との出会いにスポットを当て、そこから生まれるさまざまなストーリーを紹介していきます。初回の動画では、当館の木下館長が根付とは何かかわからずに心惹かれた思い出と、その後日本文化の表象として美術館を開設するにいたった経緯を特集しています。対談の進行役は、『探偵ナイトスクープ』などに出演されてきた岡部まり様で、軽妙なトークで進行します。岡部様とは、もともと雑誌の取材を通じて館長と知り合い、以降は当館の根付アワードや小唄会の司会をお願いしています。また岡部様

の芸術的な審美眼の高さから、2022年から当館の評議員もされ2023年には学芸員資格も取得されています。現在美しい日本文化の普及に尽力されています。そんなお二人の対談は終始和やかな雰囲気で行われました。YouTube 最後の質問で館長にとって根付とは？と聞かれ「不思議な芸術」と回答されました。根付の魅力とは、本来出会うはずのなかった多くの方々が会える機会を生みだし、導き合わせることが出来る。そんな不思議な魅力を持っている芸術品だと語っております。今後も公式チャンネルでは、より多くの方々に親しみやすく根付の魅力が伝わるように発信して参ります。



新連載 数奇な運命に彩られた 現代根付の歩み

現代根付とは？ 新しい伝統美術工芸品の誕生

当館での展示は現代根付を主流にして古典作品とともに紹介しております。そもそも根付はその発生から約 400 年の歴史を有しますが、初期の作例で現存しているものは非常に少なく、江戸から大正期までの実用的な作品はそのほとんどが海外に流出してしまいました。昭和時代前半の根付業界は苦しい状況でしたが、高度成長期を迎えると若い作家らを中心に根付の復興を掲げる機運が高まっていきました。そんな中 1970 年代から従来の表現を脱して、現代的な感覚を取り入れた創作運動が起こりました。それまでは分業が主流でしたが工房制作から作家一作主義を目指し、作家らは研鑽を重ねて意欲的な作品を発表し「現代根付」と呼ばれるようになっていきました。古典作品とは一線を画す発想や造形力によって新境地を切り拓き、現代まで

脈々と続いてきました。さらには他ジャンルの工芸技術が導入されたり、従来使われなかった新素材が駆使されたりと新局面を迎えています。昭和、平成、令和へと変遷するなかで作家たちは前時代の克服を重ねながら、常に「今」を表現しようと模索を続け、同時代を生きる私たちの共感を誘ってきました。当館ではそうした「今」を一緒に歩む美術作品としての根付をご覧いただいています。現代根付は新しい伝統美術工芸品として、その精密さと大胆さを活かした造形、深い物語性、奇想天外な発想力などご覧になる方それぞれに楽しみを発見していただいているようです。そうした現代根付の歩みを、次号から数回にわたって連載し、当館が所蔵する作品と作家に焦点を当てながら時代をたどって参ります。

2025年 1月～3月の特別企画展のご案内

根付は人生を映したドラマ。『根付から始まる奇跡』展

- 2025年
- 1月「運命の出会いと根付」展 ■ 1月7日(火)～31日(金)
 - 2月「奇跡のカタチと鑑賞法」展 ■ 2月1日(土)～28日(金)
 - 3月「結び合う世界と根付」展 ■ 3月1日(土)～30日(日)

京都 清宗根付館 公式 YouTube チャンネルを開設しました。今までの公式 Twitter、Instagram でも、最新情報や作品画像を発信していますので、皆様のフォローをお待ちしています。

第 9 回 水木十五堂賞受賞(奈良県大和郡山市より授与)、家庭画報(目次頁)に毎月掲載、NHK プレミアム「美の壺」出演



公式サイトはこちらから▶



佐川印刷株式会社は印刷及び情報加工の分野でのリーディングカンパニーとして、日本文化の継承と美術の発展を目指し、京都 清宗根付館を応援しています。

京都 清宗根付館とは

当館は、佐川印刷株式会社 代表取締役会長 木下宗昭による「日本のよき伝統を、日本人の手によって、日本に保管したい」という発意によって、ここ文化首都・京都に設立された、日本で唯一の根付を専門とする美術館です。当館では、「新たな挑戦」と「絆」をむね(宗)とし、根付と根付をめぐる文化の継承・創造・発展を目指し、<魅せる><育む><繋がる>を使命に、地域と皆さまに開かれた美術館として活動しています。



[目次]

- 企画展の見所
- 根付館便り
- 現代根付の歩み

[発行元]

公益財団法人 京都 清宗根付館
〒604-8811 京都市中京区壬生
賀陽御所町46番地(壬生寺東側)
電話 075(802)7000
www.netsukekan.jp/



日本で唯一の現代根付専門美術館 京都 清宗根付館『企画展』のご案内

時に育まれた、悠久の浪漫。『根付の時代絵巻』展

当館では 6000 点に及ぶコレクションの中から、絢爛たる時代絵巻をテーマに、各月ごと異なる趣向でお届けします。10月は「きらめく王朝の美」と題して、平安王朝の華麗な世界を特集します。平安時代は大陸から伝わった文物と、日本独自の季節感や審美眼を礎に、洗練された宮廷文化が開花しました。王朝浪漫への憧れや京の都にふさわしい華やかな作品で往時に想いを馳せます。11月は「秋の名品」と題してゴールデン根付アワード受賞作品とノミネート作品を一堂に披露いたします。この表彰は根付文化の継承を目的として創設し、2014年から当館に

おいて毎年授賞式を開催しているものです。時代を継承し、未来を見すえた挑戦を続ける作家たちの作品を紹介します。12月は「ノスタルジックな根付」と題して、今では懐かしい、そしてちょっと新鮮な昭和時代へタイムトリップします。昭和は戦前と戦後では生活のスタイルも大きく変わりました。戦後の復興から高度成長期を迎え、映画やテレビなどの娯楽やファッションの多様化、アイドルの黄金時代、サブカルチャーの台頭、そしてバブル景気など光り輝いていた昭和時代をノスタルジックな根付で振り返ります。

The gorgeous and spectacular World of Netsuke

時に育まれた、悠久の浪漫。

10月「きらめく王朝の美」展
"The Dynamic Beauty of Netsuke"
10月1日(金)～15日(木)
11月1日(金)～28日(金)
November 1 (Fri) ~ 30 (Sat)

11月「秋の名品」展
"Netsuke in all their glory"
11月1日(金)～28日(金)
November 1 (Fri) ~ 30 (Sat)

12月「ノスタルジックな根付」展
"Netsuke with nostalgic scenes"
12月1日(土)～29日(日)
December 1 (Sun) ~ 29 (Sun)

京都 清宗根付館
Public Interest Incorporated Foundation
KYOTO SEISHU NETSUKE ART MUSEUM
〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町46番地1 (壬生寺東側)
詳細はホームページでご確認ください

SAGAWA PRINTING
佐川印刷株式会社は印刷及び情報加工の分野でのリーディングカンパニーとして、日本文化の継承と美術の発展を目指し、京都 清宗根付館を応援しています。

告知ポスター

10月 宮廷を中心に花開いた優雅な世界。 ■ 10月1日(火)～31日(木)

「きらめく王朝の美」展

平安時代は四世紀にもわたりますが、概して天皇や貴族を中心とした王朝文化が花開きました。大陸から伝わった外来美術の影響から脱し、優雅で洗練された国風文化が築られました。「源氏物語」に代表されるような物語や、和歌、やまと絵、十二単、寝殿造といった日本独自の発展を見せ、現在の日本文化の源流を見ることができます。また「もののあはれ」や「をかし」などの美意識も平安貴族たちによって発見され、仏教などの宗教美術も後世の芸術や芸能にも影響を与えることになりました。平安時代の優美な王朝浪漫を題材にした根付と京都らしい華やかな作品をご覧ください。



駒田 柳之 (1934～)
「虫の音」 高4.2cm
象牙

源氏物語絵巻から出てきたような平安女性。源氏に逢えない心のすき間を虫の音で埋めている。顔を傾けることで感情まで表現している。



森 哲郎 (1960～)
「郷愁」 高3.2cm
象牙

竹取物語は平安前期に成立した日本最古の物語。月へ帰る定めを悲しむかぐや姫にとって故郷は翁と姫の暮らすこの地上かもしれない。



安藤 みち (1948～)
「紫式部」 高4.8cm
象牙

「源氏物語」の作者として女流文学の始祖とされる紫式部。思索のあいまにふと窓の外を眺めているようなひと場面を作品にしている。



宮澤 宝泉 (1942～)
「光源氏」 高4.6cm
象牙

柏木と女三宮の不倫の末に生まれた薫を光源氏が我が子として抱いている。若き日の藤壺中宮と犯した過ちに思いを馳せる。



平賀 胤壽 (1947～)
「静の舞」 高6.5cm
象牙・ベッコ甲

平安末期、雨乞いのため神泉苑に百人の白拍子が集められ、最後に静が踊ると黒雲が立ち込め八大龍王が現れ、恵みの雨を降らせたとされる。

11月 輝く栄光！時代を切り拓く意欲作が集結。 ■ 11月1日(金)～30日(土)

「秋の名品」展

年に一度行われる当館最大のイベント、ゴールデン根付アワード※。この表彰は根付文化の継承を目的として、現代作家による自由で新たな挑戦を奨励するため、2014年から毎年授賞式を開催しております。現代作家の新作の中から評議員によって審査されグランプリを決定します。作家たちはグランプリを目指し、創意工夫を凝らし、新機軸を打ち出そうと意欲的に創作に取り組んでいます。時代を継承し、未来を見すえた挑戦を続ける作家たちの作品を紹介します。

※当館で展示された新作根付の中から総合的に優れた技術や発想を持つ作品に与えられる賞。



THE GOLDEN NETSUKE AWARDS グランプリ

及川 空観 (1968～)
「いかさま師」 高5.0cm
象牙

鹿鳴館時代の紳士淑女が興じるカードゲーム。婦人は胸元に仕込んだカードに手をかけるが、実は全員がいかさま師！果たして勝負の行方は？



THE GOLDEN NETSUKE AWARDS グランプリ

佐々木 明美 (1959～)
「よりそう」 高6.1cm
象牙

清元「保名」は貴公子、安倍保名が亡き恋人を追い求めてさまよう舞踊劇。野辺に遊ぶ番(つがい)の蝶に生前の恋人と寄り添う幻影を見る。



優秀賞

栗田 元正 (1976～)
「文賣り」 高5.9cm
鹿角

文売りとは、懸想文(けそうぶみ:恋文の意)の代筆を請け負い、男女の縁を結ぶのが生業。今宵の恋路ではどんな睦言を伝えるのだろうか。



優秀賞

関根 蕪 (1972～)
「玉兔搗薬」 高5.7cm
鹿角・ウニコール・羊角

ウニコールを月に見立て、中を開けると月に棲む兔が不老不死の妙薬を搗いているという趣向。根付には火鉢で温まる兔にしている。



理事長賞

芳月 三帆 (1950～)
「たび姿」 高3.8cm
象牙

三度笠を被った旅姿の鼠が今晚泊まる宿は足袋(たび)という言葉遊びの作品。足袋のこはぜまで彫り込んでいるところが秀逸。

12月 懐かしく、ちょっと新鮮な昭和時代。 ■ 12月1日(日)～29日(日)

「ノスタルジックな根付」展

郷愁を誘う昭和時代。現在でもファッションや音楽などリバイバルが起きて新鮮な印象で再評価されています。昭和は戦後の困難な時代からの復興、科学技術の進歩を謳歌した高度成長期、グローバル化、バブル景気と激動の時代でもありました。根付界でも昭和40年代後半(1970年代)に作家意識が芽生え、芸術性が高まりました。一億総中流とも呼ばれたように生活のスタイルも大きく変わり、映画やテレビなどの娯楽やファッションの多様化、スターやアイドルの黄金時代、サブカルチャーの台頭など光り輝いていた「昭和」をノスタルジックな根付で振り返ります。



中畑 泰成 (1953～)
「そりあそび」 高4.0cm
黄楊・海松

1960年以降国民所得も増えたことで、余暇にスキーを楽しむレジャーブームが起きた。子供たちにとってそり遊びは昭和を代表する遊びであった。



和池 一風 (1970～)
「対浴衣」 高4.9cm
象牙

小唄より。男性との道ならぬ恋に、せめてものしるしに対浴衣を着るという女心を表現。男性の浴衣に近づけた顔もほころぶ。



加賀美 光訓 (1959～)
「通勤地獄 さらば先頭車両と日の丸弁当」 高4.0cm
象牙・黒水牛角・黒檀・ベッコ甲・アクリル

「通勤地獄はマンガだ」(1965)と新聞で揶揄された東京の通勤ラッシュ。昭和の高度成長はそうしたサラリーマンたちによって支えられた。



山本 伊多呂 (1961～)
「婆ちゃん」 高5.1cm
黄楊

着物に割烹着、胸にはガマ口の財布という昭和時代の典型的なお婆ちゃんの姿。背負われているのは幼少期の作者本人。思い出の詰まった昭和の幻影。



青木 光行 (1932～)
「祭り」 高4.6cm
象牙

昭和42年(1967)には総人口が一億人を突破した。町内会での夏祭りも盛り上がり、お面をつけた大人や露店目当ての子供たちが賑わった。